

## 五明地区タウンミーティング(要約)

平成25年12月14日(土曜日)

【市長】 皆様こんにちは。今日は休日でおくつろぎの方も多かったかと思うんですが、このように多数の方がお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。大変お忙しい中、このタウンミーティングの受け入れをご快諾いただきました五明地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ役員の皆様にはご協力をいただきまして本当にありがとうございました。さて、このタウンミーティングですが私の公約の1番に掲げているものでございまして、それは市役所で待っていたのではいけないだろうと。松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町あわせて41地区に分かれます。それぞれの地区で魅力があったりお困りの点があったり課題の点があるでしょうから私どもが出向かせていただいて、聞かせていただいたほうがいいんじゃないかと思っておりまして、公約の1番に掲げておりました。この五明は大変思い入れのある場所でございます、それはタウンミーティングの1回目を開催させていただきました。私が就任させていただいてから1カ月半のときにタウンミーティングの1回目をさせていただきました。おかげさまでタウンミーティング2巡目に入ってございまして、今2巡目の14地区目で今日が延べでいいますと55地区目になります。松山市版のタウンミーティングはガス抜きとかのためにやっているのではありません。ガス抜きとかパフォーマンスでやっていたら1巡で終わっていたと思うんですけども、やはりできるだけ皆様の声をお聞かせいただいて、そしてできることから市政に反映したい思いでやっておりますので今2巡目に入っているところです。五明地区も2回目やってきたわけでございます。そしてこのタウンミーティングですけれども、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングが松山市版のタウンミーティングでございます。1巡もそうでしたけれども2回目の今回も必ずこの場でお答えできることはこの場でお答えをいたしますが、中には財政的な問題があるものとか国と絡むもの県と絡むもの、こういったものはいったん持ち帰らせていただくことがございます。いったん持ち帰らせていただいたものも必ず1カ月を目途に五明の方に答えをお返しいたしますので聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングでございます。今日は最前列に可愛い女の子が来られておりますので、90分です。やっぱり肩ひじ張って緊張するとしんどくなりますので、あまり肩ひじ張らずにざっくばらんに五明地区のさまざまなことについて教えていただいて前向きな話ができればと思います。今日はどうぞよろし

くお願いいたします。

【男性】 区長会長をしております。お世話になります。五明小学校の件のご説明していただきましたが、バスで12名の子どもたちが元気に通ってきていただいております。この12名の子どもたちも元気に学校生活に慣れて、地域の子どもたちとのコミュニケーションもうまくとれとるんではないかと思うんですが、バスが12名ということで、今私たちが心配していることは、12名以上になった場合に五明小学校で学びたいのに学べなくなる子どもがおるのではないかと我々は心配をしております。もし13名とか14名になった場合にお力を借りて何か策を考えていただいたらと思っております。よろしく申し上げます。

【生涯学習政策課長】 教育委員会生涯学習政策課の津田と申します。ご質問ありがとうございます。今のお話はどんぐり号といわれているバスだと思うんですけれども、ご承知のとおり今現在12名のお子様を利用されています。現在我々が把握しておりますのは、来年度から13名になるやに聞いております。このバスは定員が14名になっておりまして、来年度に関しましては十分に対応できようかと思うんですけれども、今後お子様の数の推移とか、弾力化により希望も募っておりますので、来年度以降また応募をかけるんですけれども、数が増えるようでありましたら、改めてその分検討する形で今考えておるところです。来年度は間違いないと思います。

【男性】 今バスの件でお答えいただいたんですけども、14名というお返事をもらったんですけども、バスは運転手も含め15人乗りになっているということでよろしいでしょうか。運転手さんが乗れば残り14名という解釈ですか。

【生涯学習政策課長】 はい。

【男性】 はい、わかりました。やはり1番前の席は、安全性の問題で少し不安を感じる面もあることも少しお含みおき願ったらと言うところと思ひまして、お願いではない一応現状として発言を少しさせてもらいました。私としても市内全域から通ってこられるご家庭の保護者の皆様及び学校も地域も安全にして安心して子どもたちが登下校できることをやっぱり大事にしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

【生涯学習政策課長】 ご意見預からせていただきますので、よろしく申し上げます。

【中学生】 旭中学校生です。学校の帰り道に街灯が少ないと思うので、街灯を取りつけてほしいんですけど。どうでしょうか。

【市民部長】 市民部の吉野です。よろしくお願ひいたします。ご質問ありがとうございます。道が暗くて街灯ということであれば、私どもで防犯灯を新設しています。それから器具の取りかえとか蛍光灯が切れたときの管の取りかえをしています。ただこれは、防犯協会を通じてやっておるんですけども、あくまで設置だけでして、あとの維持管理とか電気代は地元にお願ひしているということがありまして、どうしても地元負担でかかりますので、地元の町内会長さん等から申請を上げていただく。このあたりにつけたいんだとまず相談していただいたらと思うんですけど、できたらご家庭の方か学校の先生に相談して、町内会長さんにこのあたりが暗いんでつけてもらうように相談してもらえんじやろうかいうて言ってもらったらいんじゃないかと思ひます。よろしくお願ひします。

【市長】 多分、同級生の人もここに防犯灯があつたらいいなと思つてる人いると思うんですよ。学校の友達に聞いてもらうのもいいし、また家庭でそういうお話してもらうのもいいし。新しく設置するときの受付は、4月、7月、10月、1月の年4回やっているそうです。ですから一番早かつたら1月にその時期が来るかもしれませぬね。支所で受付もしているので、またお話をしてみてください。部長、防犯灯のことですけども、管理は地元だというお話がありましたが、市役所がしてくれたらええのに何で地元で管理せないかんのぞつていう声に対してはどういう説明になりますか。

【市民部長】 「自らのまちは、自らで守る」という自主防犯の感覚といひますか気持ちですね。実はもう一つありまして、防犯灯は市内に3万灯あります。大体電気代が年間で1灯あたり2千円から4千円前後かかりますので、それをということになりますと、大変な負担にもなりますし、それから最初に返りますけど、自分たちのまちは自分たちで守るといふ自主防犯の感覚で扱っていただいたらと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

【市長】 電灯が切れた場合に地元で管理していただいていると気づきやすいですよ。松山市が全部扱えたらいいんですけども、市内に3万灯ありますので、やはり地元で管理をお願ひしたほうが、「ここ球が切れてるよ、かえないと」つていふのができますので、地元で管理はお願ひできればと今そのような経緯でやっているところでございます。

【男性】 防災無線の件でお力を借りたいと思つていひます。危機管理担当部からの説明で本庁から集落ということで説明を受けたんですが、五明地域としては五つの集落があります。菅沢、神次郎、城山、恩地、柳谷とあるわけですが、その集落から集落の連絡をもしよかつたら気にとめていた

だいて、できる体制をとっていただいたらと思っております。災害が起きた場合に、本庁に言うて本庁から行く、それじゃなくて何かないかということを集落にこう連絡ができるような。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。ご質問ありがとうございます。今松山市もデジタル防災行政無線の整備を行っております。この五明地区も間もなく整備を開始するものと思われまじけれども、各地域に整備の際にもうすでにお願ひに行っていると思うんですけれども、今のところ4カ所予定しております。菅沢分館、城山柳谷ポンプ蔵置所、それと元の柳谷のポンプ蔵置所の跡地、神次郎ポンプ蔵置所の4カ所を予定しております。この4カ所で現在ほぼ同じ場所に設置するんですけれども、性能も向上しますし、さまざまな機能も付加されておりますので、伝達範囲も今現状よりかは広がるものと考えております。それとご質問の地域、集落から集落へという話でございますけれども、実は防災行政無線は中継局がございまして、中継局が行道山と中島の泰ノ山の2局を中継する形になっております。その中継局から電波を飛ばして受信する仕組みになっておりますので、その子局間同士の通話は、また総合通信局等との協議も必要になるかと思ひますけれども、私から危機管理担当部に伝えまして、整備が完了した後にそのあたりも検討していくようになるかと思ひますので、ご理解いただいたらと思ひます。

【市長】 今、防災のことで質問が出ました。私から皆さんにお願ひがあります。皆さんのお家には平成23年3月に防災マップが全戸配布、皆さんのお家に必ず届いています。五明は58ページに載っています。どこが避難場所とかそういったことが書かれています。この防災マップが配られた後にあの東日本大震災が起こってしまったのですが、だからといってこれが全然使えないようになったわけではありません。ですので、どうぞ皆様方にはこの防災マップをぜひともご覧いただけたらと思ひます。どういふものを災害用として持っておいたらいいのか準備しておいたらいいのか、そういうものがこの中に全部書かれてあります。実はこの防災マップはものすごくいろいろと相談してつくったもので、愛媛大学に防災センターといったものがありまして、矢田部先生という防災の権威の方がいらっしゃいます。その矢田部先生ともいろいろとお話をしながら、例えば目立つので蛍光色をつけてるんですけども、あまり派手かましい色をつけると目の不自由な方からすると逆に見にくいんだそうです。そういう色のつけ方まで配慮してつくった防災マップ、ほんとに入魂のもので、ぜひともご活用いただけたらと思ひます。ちなみに防災マップを1枚あけると、松山市民にとつたアンケートが出ています。松山市内、何らかの災害に遭

遇すると思っている人は75%、つまりおよそ8割の人が何らかの災害に遭遇するだろうと思っているんですが、逆に地震に備えて家具の固定をしている人はわずか19%、2割しかいないんです。8割の人が何らかの災害に遭遇するだろうと思ってるんだけど、家具の固定をしている人は2割しかいないんですね。私、今年8月に防災士の試験を受けさせていただいて、防災士の資格を取らせていただきました。この資格の中で勉強したことですけど、大きな地震がきた際に、タンス家具はものすごくやっぱり重いですから地震で揺られるとその家具につぶされてしまう。家具が飛んでくることを考えると、やはり家具固定は非常に大事なことなので、2割の方しか家具固定をしていないという状況がありますので、ぜひともしっかりと備える。災害に対しては正しく恐れるということが大事です。例え話ですけども、海で泳いでいて足がつかないと不安ですよ。でも足がつくと安心できますよね。やはり津波に対しても正しく恐れるということが大事です。標高表示板といいまして、ここは何メートルですよっていうのを沿岸部で地元の方と一緒にやってるわけですけども、やっぱり正しく恐れるということが大事でありますので、正しく恐れてそしてしっかりと準備をしていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 五明猟友会です。お世話になっております。イノシシにつきましては結構捕獲状態が進んでおまして、五明での生息数は大幅に減ったと思います。それで一つ困ったことですが、鹿が今年はようけおまして鹿の被害、20頭余りは捕獲したんですが、来年度あたりも今年以上に被害が出る恐れがあります。カラス、それから鹿も助成金の対象に加えていただくことをお願いします。以上です、よろしく願いいたします。

【市長】 サルはいかがですか。五明地区ではなかったかと思うんですが、今高級柑橘で、すごく人気が高まっている紅まどんなですけども、ハウスで栽培をされる方もいらっしゃるんですが、路地で栽培をされる方もいらっしゃると思います。袋掛けをしてつくるわけですけども、ほんとにおいしくなってきたところでサルにやられてしまうという例も聞いてはおるんですが、五明ではどんなですか、サルは。

【男性】 サルは今年捕獲したのは2頭だけなんです。なかなか賢くて捕獲できない状況で、それで被害が太秋（たいしゅう）、品種のね、柿ですけど、これが一夜のうちにして3ヘクタールぐらい何にもなくなったという被害が出とります。サルは今おるからすぐ来てくれという銃持っていくんですけど、行ったらもう跡形もない状態でなかなか捕獲は難しいです。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課長の矢野でござ

ざいます。よろしく願いいたします。先ほどおっしゃられたように鹿の被害が大きくなってきてると。鹿についても補助の対象にならないか。おっしゃるようにイノシシは今2万円、それからサルは3万円報償費ですけども、鹿、カラスの被害がご当地ならずともほかの地域で出始めているのは私どもとしても十分認識をしています。鹿についても対象とできるかどうか検討をしていますので、しかるべきときにご報告をさせていただければと思います。サルについてはすごく賢く捕獲しにくい、今までの対策だけでいいのか、いろいろ検討していますのでご理解をいただければと思います。よろしく願いします。

【市長】 サル対策ですが、さまざま検討しておりまして、検討中ですけどモンキードッグという存在がいます。サルがまちに降りてこない、集落に降りてこないために犬で防ごうっていうものですけど、これ難しいところが、やっぱり訓練しないといけないんですよ。訓練の期間があると。飼い主さんの言うことを聞くので飼い主さんと一緒に訓練機関に行かないといけない。訓練機関が愛媛に今現状ないです。でもモンキードッグを活用できれば集落に降りてくるのを防ぐことはできると。サルもはぐれザル、オスザルが一匹のケースとメスザルを中心とした集団のケースと二通りあるんですね。モンキードッグで追いやると、ほかの地区に移るだけという話もあって、モンキードッグをやるとしたらどれぐらい経費が要ってどれぐらい期間が要って、誰がやってくれるのかも含めて今検討しているところです。私自身が実家で農業経験がありますし、前の仕事で20年、現地現場に行かせていただいて農業の場面も見せていただき、皆さんの苦勞と工夫は知っていますので、最後の最後に収穫手前のものをやられるのは非常につらいと思います。何かできる方策はないか常に考えていきたいと思っています。

【男性】 10年前ぐらいにこちらに帰ってきたんですけど、ほんとに単純な疑問です。石手川ダムがありますよね。その上流に処理場とかついているんですけど、ダムなんかやったら市民が飲む飲み水ですから、どうしてそういうのが上流にできるのか、それが通るたびに不安なんです。知らない山のほうに処理場の車が上がって行ったりしてるんですよ。この上にあつたんかなって思ったりするところに。何回もそういうこと出合ったりするんで、それが不安な要素なんですけど。

【市長】 わかりました。今日、勉強のために環境政策課長が来ておりますので、専門家が何らかお答えできることがあれば、難しければいったん持ち帰らせていただいて、きちとしたご説明ができればと思うんですが。これまでの経緯ですよ。どうしてそういうふうになっているのか。

【環境政策課長】 失礼します。環境政策課の大西です。石手川のダムの処分場、どのあたりのことですかね。

【男性】 神次郎からちょっと下がったところへん。

【環境政策課長】 また、その場所を教えていただいたらと思うんですけど、処分場の許可については、ちゃんとした書類を出していただきまして、それでいろいろ検討させていただいて許可を出しております。ですので、今おっしゃられたところの場所を教えていただいて、再度持ち帰らせていただいて状況をご報告させていただけたらと思いますのでよろしくお願い致します。

【男性】 失礼します。五明地区のまちづくりを担当しております。よろしく願いいたします。今日はまた市長さんはじめ関係者の方々、寒い中ありがとうございます。今日このタウンミーティングということでお話をいろいろ考えておりましたんですけど、なかなか皆さんのご意見ももうひとつかなということもありますし、それに我々このまちづくりを今現在進行中ですけど約80パーセントぐらいの成功率かなと感じております。

100パーセント行きたいと思っておりますんですけど、なかなか色々な事情もございまして今言うようにイノシシの問題とか水質の問題とかいろいろあると思うんですけど、この中でまちづくりもこれの一部に加わって、これからの皆さんとの行政との中で話をしながら一つずつ進めていきたいと考えております。それからこのテーマとは外れるんですけど今、五明地区皆さんは見られてわかるようにこういう過疎化になった田舎なもので、これをどういうふうにもまちづくりとして発展させていくかを、いろいろ役員ともまた住民の方々と一緒に話しておるんですけど、なかなか前進が難しいということも一つはあります。その中で何をしたらこの五明地区の発展のためそして五明の活性化のためにはどうしたらいいかは、まず一口でいえば人口を増やす、または子どもさんを増やすということも考えられますので、先ほども学校の話は出ましたが学校の校長先生とお話するとどうも存続ができればいいじゃないかということもあるんですけど、我々としては存続だけでは普通、当たり前なことではそれ以上の子どもを増やしその子どもさんの父兄さんも増やすという人口を一人でも増やしていく考え方で取り組んでおるわけで、存続だけで止めてしまうのもいかなものかなと我々はそう思っております。それともう一つは、まちの人に五明に来てくれと言っても受け皿が一つもできてない、一人の人が家を建てたい、ここに住みたいと言うても住むところがない、家がない、もちろん建てる場所もないと。そういう状況で来い言うてもなかなかどこへそれなら家を建てるんか、住むんかとなると、結構難しいところもございまして。だ

から一昨年アパートを建ててくれとお話したと思うんですけど、そういう面も含めて空地に何か建ててもらってせめて10世帯ぐらいは入れるものできないかと、我々もいろいろ地区の人に聞けばこの五明に住みたい、子どもと一緒に住みたいという話は何カ所も聞いておりますので希望者が今現在何人もおるということではございます。だけど今言った状況で受け皿がないことが一番の五明地区の欠陥ではなかろうかと考えております。またその辺を検討をしていただければと重ねてお願いしたいと思えます。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本と申します。ご意見ありがとうございます。まず先ほど言いましたように市営住宅を新たに建てるのはなかなか難しいんですけど、現在松山市内の全域の中で空き家が増えている課題もございます。五明地区でどうかということもあるかと思うんですけども、そういった空き家の利用活用や、あるいは土地の有効利用で、そういった土地が現在空いてて利用できるかについては、民間事業者の方も協力いただいて今後どういうふうに松山市として空き家対策を講じていくかは現在検討中でございます。そういったところも含めて、住宅を建てるところは検討をしているところですけども、それじゃあこちらに住まわって雇用、生活、どうしていくかということもありますので別の観点から。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課でございます。おっしゃっていただいたように過疎化の問題、人口をいかに増やしていくかは非常に大きな課題だと考えています。そしてこれは残念ながら松山市の中でも、ご当地だけでなく例えば合併をいたしました中島地域それから久谷とか北条とかいろいろな地域がこういった課題を抱えてございます。おっしゃられるように住宅の整備を行政が全般的に構えれることができればいいんでしょうけれども、やはりさまざまな地域で同様の悩みがございます。ですのでそういったこともぜひご理解をいただく中で、例えば中島地域などでは、すでに地域の方々がIターンで帰ってらっしゃった方がお友達を「ここいいとこだよ、住んでみないか」ってお誘いをされたり、そして行政に頼るよりは自分たちがそういう仲間の中で声をかけあっていくほうが長続きする、どんどん発展もしていくんじゃないかというお言葉もいただいたこともございまして、そうした取り組みを私どもとしては見守らせていただくと同時に、そんな中で何か今後お力添えできることがあれば検討していきたいと考えているところでございますので何とぞご理解をいただければと思えます。

【市長】 私から追加をさせていただくと、前回のタウンミーティングで



このご意見いただいてから、ずっとさまざま検討させていただいているところ。難しいのが市が今、市営住宅は基本的にはもうあまり建てないと。今あるものを有効活用するという状況の中でさせていただいております。というのがやっぱり財政的な問題。国が今1千兆円の借金を抱えています。国から仕送りと一緒に地方に地方交付税交付金とか国庫支出金っていう形で地方にお金が回ってくるんですけども、親元がそれだけの大きな借金を抱えていますから、これから地方への仕送りが増えるとはとても考えにくいんですね。そういう中で何をしなくちゃいけないかはよく考えてやっていかないといけない。昔、箱物行政、高度経済成長のときだったらそういったことができたのかもしれないし、それがニーズに合ってたのかもかもしれないですけども、これからは少子化ですから働いて税金を払ってくれる人がこれから少なくなっていくことが予想されます。そういう中で私もこうやって要望をしていただいて、「わかりました、これやりましょう、あれやりましょう、それもやりましょう」って言えたほうが僕も人間ですから楽なんですけども、それを「いいですよ、わかりました」って何でもやっちゃうとそれは将来の子どもや孫にツケを残してしまうことになるんですね。ですので、皆さんの声に耳を傾けさせていただいて、後手にならないために今何をすべきなのかを聞かせていただきたいなっていうことでタウンミーティングを重ねさせていただいております。行政が難しいのはいったん建てたらまず建てるお金が要ります。そしてそれを持ち続ける維持管理していくお金が毎年要るんですよ。行政がやることですからいったんつくって止めたはなかなか言えないんです。行政はなかなか動かかんって言われてしまうのかもしれないんですけども、もちろんできることから早くやろうと思ってるんですけども、中にはやっぱりしっかりと計画を立ててニーズ調査をしてやらなくちゃいけないところがあるので時間がかかる部分はどうしてもあるかと思います。でも、できるだけ早くしていこうとは思っているんですけどもそんな状態です。私が逆にお伺いしたいのは、例えば新築で建てちゃうとお金はたくさんいるんですけども、空き家を有効活用することができないかと皆様には問いかけたいたいです。確かに聞きます。前回のタウンミーティングでもこの五明からは松山市内は20分ですかね。車で行けるんで近いというお話を聞きます。盆踊り来させていただいたら、つながりもあるし星もきれいだしほんとに素敵な場所だと思います。若い人が住みたいと思うのもわかります。そこで空き家を活用することができたら、まだ話は違ってくるのかなあ。また、民間で絶対ここ五明に住むのが明らかにニーズがわかっているれば民間が建てると思うんですけども、残念ながらそういう動きはないんですよ。ですから

行政が建てるのか、行政と民間が共同で建てるのか、民間が建てるのかというそういう方策もあるかと思えます。これは市長、投資じゃないか。五明に投資してくれ、それで若い人を増やしたいんだっていうその考え方もあると思えます。そういうことでしたら五明の方がまとまっていただいて例えば要望書を提出していただくとか、そういう要望書を提出していただいても申しわけない、財政的にできないってなってしまうかもしれませんが、やはりそのような意見交換をしながらどうやったら五明がよりよくなるのか。そのためには行政が何ができるのか、皆さんには何をさせていただくことができるのか、そういう意見交換ができればと思えますので、せっかくまちづくり協議会ができていますので、皆さんと連携しながらやっていければと思えます。よろしくお願ひします。

【男性】 私は住宅を建てるより前に宅地造成をしてもろたらええと思うんです。というのは私は神戸の3千戸の住宅を建てるところに行っただんですが、そこは山で25町歩もあるんです。そこらは市がやりよるんじゃない、企業がやりよるんです。できたところへはみんなが宅地を買って家を建てるんですね。そこへ木を切りに行ったんですけれども私らは木を切る、耕地の人は私らが切った木を下ろして谷へ埋めてその上へ大きな石を入れてまた小さい砂利を1メートルほど入れてその上へ造成していくんですが、大型ダンプの5台ぐらいが1台の機械なんです。それでやっていったらダンプの荷台に積むように泥が上がるんですね。それを回りもって降ろしていく。それを3台でやるんですよ。人間の手でスコップでしよるんじゃないんです。そして造成したところが3千戸で向かいが2千戸で、お水が琵琶湖から来るんじゃない言いました。そのようにしていけば家は個人で建てるんですね。そこらは昔地震で地下がりしたところらしいんですよ。断崖がありましたかね。上から下を見ると神戸のまちが見えるんです。それが断崖の絶壁からずっとあるんですからこれは普通じゃない。昔も大地震で下がったところじゃと言うたんですが私らがやってから17年たってあの阪神の大地震があったんです。谷には25町歩もあるところに水が一滴もありませんでした。そして池は普通のところは谷にあるんですけど山の中腹に池がある。山の峰にある。お茶沸かすいうても峰に汲みに行かないかんのですが。そういうところですが、企業を利用して五明には1万戸でも建つ土地がなんぼでもあるんですから、そこへ建ててもらったらええんじゃないかと思えます。松山市も過去に2回水害でやられとります。北条市も正岡のどこまで津波が来たいわれがありますので安全なところではないんですから、やはり五明のような安全な地帯へ宅地造成をしてそこへ移住してきてもらったらいいんじゃないかと思えます。川内町が伊予鉄が造

成したところが、地元の人はいくつとこへ宅地つくっても誰が来るか言ったんですが1番に来たのは東京の人です。その人が言いますのに東京で退職金が4千万円だそうです。家建てようと思ったら土地買うたら済んでしまうんで、川内に来て建てたら2千万円で土地込みの家が建つて来りました。品川の人でしたが。そこで私も入らせてくれというて家入らせてもらったらキッチンだけでも10畳ぐらいあるんです。それが総檜づくり。東京じゃったら1億円かかるいうんです。それが2千万で土地込みで手に入るから東京からどんどん来たら地元の人が下の農家まで入って住んでおります。そうなるんですから松山市も安全な地区じゃないんで2回水害でやられとるんです。その水害でやられたときに住むところがないんで五明の恩地まで来てお堂の床下へまで人が住んどったことがありますので造成してください。

【都市政策課長】 都市政策課の松本です。松山市内でいうと白水台とか湯の山に大規模な住宅が建っているところがあります。以前はそういうことが可能だったんですが、現在はできないことになっていましてこれは難しいです。

【市長】 何で難しいんですか。

【都市政策課長】 大規模開発住宅は郊外にはできないことに国の指導があり、そうなっております。ただし、個人で住宅を個別に建てるのは建築基準法に基づいて、都市整備部の建築指導課へ届出をしていただいて建築をしていただく。通常は専門の建築業者の方に依頼をして建てることとなりますので、大規模なのは現在のところはできないことになっております。

【市長】 確かに難しいところですね。でも考え方としてはあると思いますので、宿題といいますか検討課題にさせていただきます。ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。

【女性】 失礼します。五明地区では山手の柳谷地区の区長をやっております。よろしくお願ひします。先ほど産業廃棄物の話があったときに思ったんですけれども、うちの部落は山間部で14軒しか家がないんです。その上はずっと山手になっていましてそこへ不法投棄かなり多いので今、地元の常会でけっこう話が出ているんですけれども、まちの入り口は道が1カ所なんです。そこへ防犯カメラ、録画できるものを置いてはどうかと。高齢化も進んでいますので人の目がないので知らない人がたくさん入ってくる状況がこの最近あって、盗難もあり防犯上のこともありますので助成いただいたら助かるかと思うんですけれどもよろしくお願ひします。

【環境政策課長】 環境政策課の大西です。不法投棄に関して大変ご迷惑かけていると思います。また場所を教えていただけたら、廃棄物対策課に

こういう状況になっていると報告して、またこの後私も見させていただいて報告させていただけたらと思います。それともう1点、防犯カメラも場所を見させていただいてご相談いただけたら設置ができるか検討を前向きにさせていただきたいと思いますので、またこの後よろしく願います。もう1点先ほどの廃棄物処分場の件ですけど五明にもう一つ神次郎に民間の処分場がございます。ここの処分場には定期的に立ち入り調査、また放流水の水質調査を実施して監視しておりますので何か問題がありましたらまた指導もいたしますのでご理解いただけたらと思います。

【男性】 住宅の件については昨年も前のタウンミーティングのときにもお話が出て、その上で条件を二つ市長さんが出された。それを建てれば満杯になるということと、それと公平に誰が入るやらわからんということでしたので、なかなか我々としてもそれを望むことはまた難しい問題にもなってくるので、できれば何らかの形で協力的にできればと思って今日お話は出したんですけど、今後また検討していただければいいと思います。それと我々このまちづくりをやっている以上、先ほどもお話を出したように人を増やすと、人口を増やすことを一番に望む。その中でこの五明地区のどういうところに魅力があるとか良さがあるとかをまず知ってもらわないと人は寄ってこないと思いますので、まずどこからどういう人を寄せるかもいろいろ我々なりに考えたところがあるんですけど、それは今度新しに、まちづくりの役員に誰にも話をしてないので後で勝手なこと言うて叱られるかもわかりませんが、私としては一人でも今言ったように増やしたい。この五明地区を見ていただきたい気持ちを持ってお話をするんでこれも検討に入るとは思いますが、トレイルランニングという山登りを競走して上がる話ですけど、これが全国的に流行ってきておりますので、愛媛県の中でも今治とか大洲、それから四国カルスト、あの辺りは今進行中らしいので我々も高縄山、大月山がありまして、この大月山には小学校の校歌にも入っと思うんですけど、大月山辺りまで野外センターから行けば大体5、6キロですけど、この辺から始まって高縄山に向けて継続していこうと考えておるんですが、この辺をお願いというのは整備なんですよね。暑い夏の盛りに草を刈らないかんということと、道路の舗装まではしなくていいんですけど、道路が傷んどるところを整備するとかをお願いしてこれから皆さんに道路を見てもらって大月山まで登ってもらう経験も必要かなと。それをすることによっていろいろ話を聞きますと大阪、東京あたりから何百人というグループがおるらしいので、どんどんもし来てもらえれば野外センターの活用にもなるし、この五明地区の良さも見てもらえるのかなと。今は全国的に誰がどこに行ってどうしたい、どう住みたいという

のが今の時代だと思imasるので、その辺も含めて一人でも仮に大阪じゃろが東京じゃろがこちらのいいところを見てもらって住んでいただける方向を願っておりますので、また考えていただければと思imasます。よろしく願いいたします。

【市長】　トレイルランニングですね。最近聞かれるようになってきました。登山とランニングを組み合わせた形ですね。山を走っていく形ですけれどもこれについては市民部長どうでしょうか。

【市民部長】　市民部の吉野です。よろしく願いいたします。最近マラソンブームでもありますし、また登山ブームで走ったり登ったりとその両者の要素をあわせ持つトレイルランニングが知られるようになりまして、競技としてもいろいろ会長さんおっしゃったように実施されているようであります。この競技がまだ始まってそんなに時間がたっていないと思imasますし、全国的にも普通のマラソンとか登山ほどはまだ知られていない段階で、今後いろいろ普及していく普及途上にあるんじゃないかと思imasますし、今後このトレイルランニングを普及も含めて研究させていただきたい段階でございますので、何とぞご理解いただけたらと思imasますのでよろしく願いいたします。

【市長】　私から追加で。これ市長が言ったからとやらないでください。地元の皆さんで研究していただいてやれるんだったらやろうでいいと思うんですけれども、前の仕事で20年間それこそ愛媛、四国、九州、中国さまざま良いまちづくりを見せていただきました。それで比較的簡単に取組みてみんなが喜ぶものは花なんじゃないかなと感じております。例えば大洲の五郎に河川敷に菜の花畑があり、また三間に行きますとチューリップがずっと並んでいるところがあったりとか。例えば春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスであったり春はチューリップであったり、そういう四季の花々を植える。うまくいけば休耕田とか耕作放棄地に植える。地元の人が協力してそういう広いところをつくることのできたら人は来るなと感じております。人が来たところで物産品を売るとか、高齢化していても花ですから比較的軽いですから、農業の経験のある方もいらっしゃるのでは花は比較的取組みやすいのかなとは感じておりますが、その土地で状況もありますので必ずできるかどうかはわかりませんのでまたご検討いただいて、やれるようだったらそういうまちづくりもあるよということでお話を申し上げた次第でございます。

【男性】　五明小学校の児童数を増やすのには旧川内町にいい例があると思imasます。井内ですが井内の小学校へ五明からも視察にも私らも行きました。児童数を増やすのにどんなことをしたかいうと、小学校の近くに住宅

を建てたんです。25軒ぐらいあると思いますが入所条件が若い人じゃないと入らさん、じいちゃんばあちゃんはあると。そうするとそこへ入ったら、下に高木いうところがあるんですがそこらも宅地は買った家が建てなんだんじゃけど奥に建ったら下にも建ててね、そしてどんどん増えて井内は児童数今多いんです。私が車で走って数えるのに下から60人ぐらい行きよると思います。そんなふうになりますからどうしても住宅を何とかして建てたい。学校の近くへなるべく建ててあげたら児童数は増えると思います。終わります。

【都市政策課長】 検討させていただくということで、先ほど言いました空き家対策の中で、新しく建てるのがなかなか難しい中で現在こういったところがあるかは、民間の方の力も借りて市としても検討してまいりたいと考えておりますので持ち帰らせていただいたらと思います。

【市長】 私も聞いてみたいですね。東温市の例も今言っていたのでそういう例もあったなと思いましたので、また松山市の民間の建設会社、住宅会社の方に聞いてみてどういう状況だということも聞いてみたいと思います。ありがとうございます。

【男性】 言葉尻をとらまわるようで悪いんですけども、先ほど大規模住宅の開発は今難しくなってるんだというお話だったんですが、どのあたりの線引きで大規模と呼ぶのか小規模ならできるのか、もう少し具体的にお願いできますか。

【都市政策課長】 手元に、基準、正式なところ持ってないのでまた改めてご報告させていただいたらと思うんですが。

【市長】 そうですね。5軒だったらいいのか10軒だったらいいのか15軒だったらいいのか、これまた必ず1カ月を目途に地区にお答えを返させていただきますので、そのときに回答をご覧いただけたらと思います。すみません。

【男性】 先ほどの空き家という話、我々も考えとんですが、空き家の件ではこの五明地区の中で空き家は確かにあります。その1戸1戸あたると先日までじいさん、ばあさんがおった荷物が置いてあるから駄目だとか、またここはどうじゃるか思っただけに行けば手を加えんと何万何百万の金を入れないと、住めない状態が非常に空き家といっても多いもので、なかなかそこから前進するということ行政にお願いせないかん話も出てくるので、我々も空き家についてはあんまり話したくないというか、話しても無駄かなと考えておるので、住める空き家があればいいんですけど調べるとそういう空き家しかないの、やはり新しいものをどっかに建てたいというのが強い要望なのでよろしくお願いします。

【市長】 これもう同じ悩みだと思います。今回このように意見交換をさせていただいたので、また一つ高みに登っていければなと思うんですが、島しょ部、中島で空き家何か活用できませんかねってお話をさせていただくんですが、例えば仏壇があってほかの人が住むには具合悪いとか、帰って来んかもしれんけど息子が帰ってきたときのために置いとってやりたいう方もいらっしゃるし、なかなか空き家はあるんだけども、それをどうってのはなかなか難しいところですね、もう同じ悩みだと思います。今回住宅に関することをさまざまいただきましたので検討させていただきたいと思います。

【男性】 危険な空き家の解体基準とか、空き家持つとるんだけど経済的に解体ができないことがある家もあると思うんですけど、そのときの基準とかは市は考えていらっしゃるんでしょうか。お願いします。

【都市政策課長】 松山市内全体の中でも老朽危険家屋がございます。基準はこれだというのはないんですけども通常、木造の建物でも非木造の建物でも耐用年数はありますけれども、特に老朽危険家屋といわれるものについて例えば道路上に倒れそうとか、誰が見てもこれは危険だというのは都市整備部の建築指導課で対応をさせていただきます。ただ建物自体はそれぞれ個人の方が所有されております。それを市で直接というのはなかなか難しい状況です。市で所有者の方、近所の方に聞くとか、土地の登記簿とか建物の登記簿で調べて、ご連絡して対応をさせていただいているのが現状でございます。

【男性】 申請書を出したら見には来ていただけるということですか。

【都市政策課長】 そういふところがあるのをお知らせいただいたら、職員が現場も見るといふことでございます。

【市長】 ご遠慮なく言っていただいたらと思います。例えば道路で穴が最近できたとか、路肩が崩れとるよとかそういうことがありましたら先ほど申し上げたように地図持って来ておりますので、ここの道が危なそうな気がするんじゃけど見てくれまいか言っていただいたら松山市でも道路パトロールカーが3台おります。常に回っておりますけども、そういったもので確認もできますし早速今日いただいたら確認にもまいりますのでご遠慮なく言っていただいたらと思います。予定の90分が来ようとしておりますのでこれを持ちまして終了にさせていただきますと思いますが、さまざまご意見いただきました。特にやはり家の問題ですね、これどうしていくのかはよくよく考えさせていただきたいと思います。私は常に皆様の声に耳を傾けていきたいと思います。それは私の原点だと思います。前の仕事20年でやっぱり現地現場に出たからこそわかったことがあります。

現地現場だからこそわかる知恵があったり苦勞があったり工夫があったりアイデアがあったり。そういったものを私は教えていただきました。現地現場に出続けることが私の原点ではないかなと思います。誠実に皆様の声に耳を傾けてそして誠実に取り組んでいく、そういった誠で治める政治ができればと思っております。また市役所って書きますけども、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っております。どうせ市役所に言うたって何も変わらんのかなと思わずに、遠慮なく相談していただいたら、「いやちょっとこういうやり方は実はできないんですけど、こういうやり方だったらできますよ」とかそういう考えもお伝えすることもできますので、どうぞ敷居を高くなさらずに遠慮なく相談していただいたらと思います。もし、ちょっと市長これ失礼じゃないんこの態度はとか、そういう職員がおりましたら市長へのわがまちメールという直接のメール制度も構えておりますので、私に直接メールをしていただいたら怒るようなことがあってはいかんですけども、そういうこともできますので遠慮なく。敷居を低くしていきたい、皆さんと行政の距離を近くしたいのが私の思いでありますので、これからも遠慮なくさまざま言っていただいたらと思います。今日は長時間にわたりさまざまご意見いただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

— 了 —